

# 機械化作業に適したカキ軽労化栽培技術

## 1 はじめに

カキは、高所で労働負担の大きい収穫や摘蕾などの作業割合が高い作物です。そこで、カキ（「刀根早生」、「平核無」）の高所作業車利用による軽労な栽培管理に適した樹形改造法と、収量確保のための側枝養成法を開発しました。

## 2 作業性を高める樹形改造法

樹形改造して高所作業車を利用することで、摘蕾と収穫の作業時間が大幅に短縮できます。脚立を利用する場合でも、樹形改造することで作業時間が短縮できます。

高所作業車利用：摘蕾 2 時間/10a、収穫 7 時間/10a 短縮  
脚立利用（改造樹）：摘蕾 0.5 時間/10a、収穫 4.5 時間/10a 短縮

樹形改造は、冬季せん定で行い、作業性のよい地上から作業できる枝を優先しつつ、高所作業車で作業できない高所部や走行の支障となる枝を切除します。



## 3 収量確保のための軽労な側枝養成法

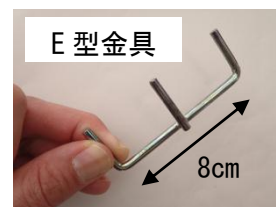
樹形改造による収量の減少を補う軽労な側枝養成法を開発しました。

○樹形改造に伴い多発が見込まれる徒長枝（通常は側枝に利用できない枝）を誘引して側枝を養成します。

○E型金具を用いることで、経験がない方でも容易にできます。

○6月下旬～7月下旬に、1m程度の長さの徒長枝を曲げてE型金具で水平に誘引し、伸長中の先端は摘心します。

○翌年、誘引枝1本当たり7果程度実がなります。



金具誘引した枝には、翌年、**7果程度**の実がなります。  
**重さや糖度は、通常の枝と同程度**です。

表1 金具誘引枝の収量および果実品質

処理	1樹当たり収量 <sup>2</sup> (kg)	1枝当たり果実数 (果/枝)	平均果重 (g)	糖度 (Brix%)
金具誘引枝	28 (20%)	6.6	250	15.7
慣行結果母枝	111 (80%)	4.1	255	15.2

z: 14年生「平核無」(植栽間隔8m×8m)1樹における金具処理枝17本の収量および処理枝以外(慣行結果母枝)の収量。( )はその収量が占める割合。

## 4 技術の効果およびコスト

○高所作業車利用による作業時間の短縮（摘蕾：約2時間/10a、収穫：7時間/10a）

○E型金具誘引による収量の確保（1枝当たり7果程度着果）

○高所作業車の参考車体価格（約60万円）、E型金具（16円/個）

（農業試験場 園芸部 三輪 直邦）